

山梨学院大学「キャリア形成論」(1年生以上)授業 実践報告

児島, 功和
山梨学院大学学習・教育開発センター : 准教授

<https://hdl.handle.net/2324/4822557>

出版情報 : オンライン授業の地平 : 2020年度の実践報告, pp.51-51, 2021-04-30. 雷音学術出版
バージョン :
権利関係 : Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives International

1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

本授業は、2020 年度後期開講の総合基礎教育科目(選択科目)であり、キャリア教育科目の「入口」と位置づけられている科目である。同じ科目を二つ担当しており、履修者は約 70 名、約 120 名となっている。

本授業では、①仕事の世界に関する基礎知識の獲得、②多様な働き方があることを知る、③キャリアについて深く考えられるようになるという目的を設定した。15 回の授業は次のパートに分かれている。①仕事の世界のルールについて知ろう、②仕事の世界と自分の生活について考えよう、③仕事の世界の変化について考えよう。各パートの間に、授業内レポートを課した。期末レポートでは、本授業で取り上げた知識の関係性をマッピングするという課題を出した。

授業は、Zoom(オンライン会議システム)、クラウド型教育支援システムの manaba と関連システム・アプリの respon(リアルタイムでアンケート等できる)、そして LINE オープンチャットを使用した。【授業数日前】manaba と LINE オープンチャットに次の授業の Zoom の URL や注意事項を書き込む。また、授業時間中に学生に解いてもらう問題等を manaba や respon にアップロード・登録する。【授業当日】Zoom、manaba と respon、LINE オープンチャットを開き、授業開始。同時に履修者の中からランダムに、私の問いかけに応じてくれる「パートナー」を指名する。例えばその学生は、私が「この資料見えていますか?」と聞いたとき、「見えています」と答えてくれる役割を担ってもらう。オンライン授業では資料が学生に提示されていないのに、私が提示されているのを前提に話をするとトラブルが起きかねない。そうしたトラブル防止という目的もあるが、会話相手を作ることで授業に動きを出したいとの意図もあった。授業はこのパートナー学生とやりとりをしながら進行する。授業の構成としては、最初に「気になる仕事・労働に関するニュースのまとめ」を respon に書き込んでもらい、私が次々に書き込まれるニュースのまとめを画面共有しながら解説する。次に、労働法に関するクイズを Zoom チャットに書き込み、学生はチャットに各自の答えを書き込んでいく。

私はそれを見ながら、学生になぜそう思ったのかを聞き、授業内容と関連づけていく。その後は PDF の資料を画面共有したうえで「講義」となる。とはいっても私が話し続けるのではなく、その間も適宜学生に質問を投げかける等する。回によっては、manaba にアップロードした資料を一定の時間内で読んでもらい、manaba の「レポート」に要約を書いてもらい、それぞれの考えを書いてもらった。最後に、学生からの質問に答えて、次回の課題を伝え、授業終了となる。【授業直後】授業資料を manaba にアップロードし、LINE オープンチャットに授業内容に関する補足情報を投稿し、学生支援に関する情報等も流した。質問をしてくれる学生もいたので答えた。

2. 今後の課題・可能性、もしくは受講生の反応等

課題は、個別的なフィードバックがなかなか出来ないということである。ただ、これは大人数授業ゆえの難しさであろう。どう改善したものか悩んでいるのが正直なところだ。可能性を感じるのは、授業構成や教材を事前に(私なりに)しっかりと組み立て・準備しておき、様々なツールを適切な形で用いれば、大人数であっても双方向でのやりとりが出来るということである。私は大人数の対面授業でも動き回る教員である。しかし、そうであっても大きな教室の奥にいる学生とコミュニケーションをとるのは難しい。オンラインでいくつかの条件が揃えば、それが可能になると考えている。